

大毎日 最後の1枚となったカレンダーをはずし、新しいのに取り替えるとき、誰もがその人だけの1年をかみしめ、次に来る1年を思いめぐらすことでしょ。

新しいノートや手帳に変えます。「おつかれさま、ありがとう」と、古いノートを閉じます。お茶を一杯静かに飲んでから、新しい帳面のはじめのページを開きます。はじめのひと言を記すために、ペンを手に取ります。いつもと比べられないくらい、ていねいに、字を置いていきます。

年が変わる瞬間を、少しわくわくしながら待ち受け、...

「あけまして おめでとう ございます」

今までに決して体験したことのない特別な時間が、今、これまでと同じような日常として、また新しく流れ始めます。

手紙やメールを開ける度に、電話が鳴る度に増えていくスケジュールを、忘れてしまわないように、新しいノートに加えていきます。

ふと思いついたアイデアや心をよぎったイメージをノートしていきます。

それらは、これまでのくり返しの中で積み上げようやく言葉にすることのできた考えかもしれませんし、これから目に見える出来事となるものの前触れかもしれません。

さあ、どんなスケジュールが、どんなドラマがカレンダーや新しいノートに加わっていくのでしょうか。

七転八倒の記録として、いつの日か苦笑いしながら見返すかもしれません。

思わず微笑がこぼれる、よろこびの走り書きかもしれません。

いすれにしても「出会い」と呼ぶもの、ひとつひとつきと意味のある、いのちある何かであるに違いありません。

昼前 山のような年賀状が届き、ひとつひとつの言葉や写真や文字に心を向けます。

もうずいぶん大きくなった卒園生の葉書きの添え書きは、思わず深呼吸です。

あの日々は私の一生の宝物です。

よし、心をこめて今年も生きよう!

年賀状に印刷してもらった、今年のひと言をもう一度自分の心に響かせます。

私たちは、多くの人たちの働きと思いに支えられて生かされています。

そして私たちは、「一人ひとりのあなた」に その人が必要としているものを少しでもお届けすることができればと願っています。

みなさま、今年もどうぞよろしくお願いいたします。

園長 升光泰雄